

介護困りごと相談

どげしたら、いいかね？



認知症の介護の困りごとや疑問について、介護経験者の方や専門家からのアドバイスを紹介します。



一人暮らしの父が、知らないうちに高額な絵画を購入していました。どうしたらいいでしょうか？これからの事も心配です。



介護経験者の A さん

私の母も一人暮らしでした。帰省時に、高級な布団と請求書があり、びっくりしたことがあります。

その会社にハガキを出して、クーリング・オフができ、布団を返すことができました。それ以後は母の部屋に見慣れない物や請求書がないかを確認することになっています。

出雲市の消費者センターの B さん

「これはあやしい？」「だまされたのでは？」と思ったら、すぐに下記に電話をしてください。

解決方法をお知らせします。クーリング・オフの期限が過ぎても返せることがあります。本人に代わって業者に交渉することもできます。

市役所消費生活センター TEL21—6682

ケアマネジャーからのアドバイス

訪問販売や電話の勧誘を拒否する手立てをしてみましょう。

- 1、「必要ありません」「契約はしません」ときっぱり断ること。
- 2、玄関に悪質商法お断りのシールを貼る。
- 3、電話の履歴利用で着信拒否をする。

認知症などで契約ができにくくなった方には「成年後見制度」のご利用をお勧めします。

やすらぎの家居宅介護支援事業所 TEL 23-9555
介護支援専門員：野淵(のぶち) 紀美子



編集後記

8月は旧暦の七夕。子供の行事だと思っておられる方が多いかもしれませんが、平安時代は宮中行事だったそうです。

あわただしい時間を過ごした後、星空ををゆっくり眺めてみるのもいいですね。願い事は…何にしましょうか？

おいしい物を食べて、暑い夏を乗り切りましょう！



やすらぎの家だより 第38号

社会福祉法人やすらぎ福祉会・やすらぎの家デイサービス・やすらぎの家居宅介護支援

発行所 出雲市大津町西谷 2604-8

TEL(0853)23-9555

平成29年 7月 25日発行

発行責任者 日野 和子



今年は豊作！新玉ねぎ！



「玉ねぎが大きくなったわー」「そろそろ食べてもいいじゃないか？」秋に植えた玉ねぎ。いつも育ちが悪く、小さなものしかできなかったのですが、今年は珍しく丸く太ったのが並び、食べ応えがありそうです。

お茶を飲みながら、何にして食べようかと、相談が始まります。「味噌汁がいいだないか！簡単で！」畑にはエンドウ豆とじゃがいもも少しばかり育ち、さっそく、春野菜をみんなで調理します。「これで‘まめ’になーよ」豆ご飯も、しっかり食べて、収穫を喜びました。



本日のメニュー
豆ごはん、おでん
味噌汁、酢の物
フルーチェ

デイサービス ほっとコーナー

ごめんよ、もうなくなっ
たわ〜。空っぽだよ。



遠足〜松江フォーゲルパーク

園内はどこを見ても色とりどりの花！高いところから垂れ下がるように飾られた花のカーテンをくぐって行くと、おしゃべりする鳥がいてビックリ!! ペンギンと一緒に散歩して、楽しい一日でした。



春はお出掛け満載!

行きますよー!
はい、またいで、
またいで!!



北島さん 茅の輪くぐり



大社はまゆり自然館

懐かしの昭和物語

何気ない会話の中で見つけた、心に残る
「昭和の暮らし」を紹介していきます。

笹巻き

6月になり、毎年恒例の笹巻きを作りながら…

「私らが小さい頃は、笹巻きを作っては鴨居に吊り下げて、干して、日持ちがするようにしとったよ」

「今頃のように冷蔵庫やなんかに、入れられんだね」

「ずら〜っと、何百本! えっとこしらえたもんだわ」

「毎朝、それを取って食べてから学校へ行ったもんだわ」

「あの頃のごちそうだったわね〜」

当時を懐かしみながら、きなこをいっぱいつけて、嬉しそうに食べられました。



みんな、待ってたよ!



こいのぼりの時期に、たちばな保育園3歳児クラスのかわいいお客さんが来てくれました。この日を楽しみに、新聞紙で作った“かぶと”のプレゼントを用意して、飾りもつけて、待っていました。子供たちが喜こんでくれる姿に、嬉しくて思わず拍手!!

長寿を願って

3年前、大根島遠足で購入した、ぼたん。花の名前は「長寿」。やすらぎの花壇に植えて、今年初めて花が咲きました。大正生まれの二人のますますの長寿を願って、「はい!ポーズ!」



介護こぼれ話

介護離職

「仕事があったから、介護が続けられたんだと思います…。」

「介護だけの生活だったら、私がおかしくなっていたと思います。大変だったけど、仕事している間は、私が私になれる唯一のときだったんです。」

介護のために仕事を辞める人(介護離職)が、年間に10万人を超えると報道されています。そのたびに思い出すのが、やすらぎの家で出会った介護者Aさんの言葉。昼間何回も電話がかかってきたり、仕事を抜けて、様子を見に家に帰っておられた方ですが、義母さんの遺影をみながら、しみじみと語っていただきました。介護と仕事、折り合いをつけながら続けていくことが、ご本人にとっても、介護者にとっても、長い目でみると良いように思います。